

オペレッタ創作による保育者としての
社会人基礎力・非認知能力の獲得に関する研究
——「すべきこと」と獲得度の認識を通して(2)——

Early Childhood educators' acquisition of basic social and
noncognitive skills through creating operettas:
An investigation of their awareness of “what should be
done” and level of skill acquisition, on Early Childhood
Educator (HOIKUSHA) Training School (Volume 2)

葛谷 潔昭・佐々木 友里

Kiyoaki Kuzuya, Yuri Sasaki

はじめに

私たちが勤務する保育者養成校では、創設以降、オペレッタ創作という学生の主体的な共同活動を通して、非認知能力、特に社会人基礎力を養うことを重要視している。この能力は、表現領域の創作活動を通して保育者として活躍するための基盤となり、グループ制作を通して社会人としての人格形成につながると考えている。この研究は、2016年度から継続しているものであり、2019年度の「保育者養成校におけるオペレッタ創作による非認知能力（社会人基礎力）獲得の学生評価のグループ討議後の変容について」の続編である。特に、前回の報告（2020）からは、社会人基礎力の獲得の実際について、2019年度の研究では明らかにできなかった学生の生の声、気持ちや実感の部分に着目し¹⁾、オペレッタ創作に取り組む学生がこの活動についてどのような評価をしたのか、具体的に考察した。今回の研究は、その後半であり、先回は、本調査（グループ討議後の調査）のデータのうち、学生がランクを付けた際に記載した自由記述の分析を行い、社会人基礎力のうち、①前に踏み出す力（アクション）〈(1) 主体性、(2) 働きかけ力、(3) 実行力〉、②考え抜く力（シンキング）〈(4) 課題発見力、(5) 計画力、(6) 創造力（想像力）〉について分析を行った。先回の研究においては、「課題発見力」と「創造力（想像力）」の獲得度が高くなる傾向は同じだった。一方ですべきこと、重要なこととして意識した内容のうち、すべての能力要素に対するコメントに

において、多数を占めているのが「自発性」と「積極性」を意図するコメントで、そのコメントに関連付けしながら「実行性」、「人間関係」に関する内容をコメントしていた。学生にとっては、以上の要素が重要だと認識し、自己と向き合ってきたと言え、オペレッタ創作を通して、学生の「自発性と人間関係を育む」という効果を発揮していたといえることができる²⁾。今回は、その内容を中心に研究を行っていくこととする。

なお、「社会人基礎力」とは、2006年経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」で示されたものであり、図1の通りである。その研究会が示した「中間取りまとめ」の図³⁾から「人間性、基本的な生活習慣をベースにした基礎学力と専門知識を使いこなすことができる力」と理解できる。2018年には「人生100年時代というコンセプト」が加えられ、図2の通り「新・社会人基礎力」として学び方や、その継続性を担保するための能力も重要視されるようになっている⁴⁾。

この「社会人基礎力」は、近年注目を浴びている「非認知能力」とも関連がある。これは、ノーベル賞受賞者でもある経済学者、ジェームズ・J・ヘックマン (James J. Heckman) が提唱した能力

前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	チームで働く力 (チ)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力		傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力		柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力		状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力		規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	創造力(想像力)(注)	新しい価値を生み出す力(抽象思考力、価値判断力)		ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

図1 「社会人基礎力」〈3つの力と12の能力要素〉

注：2018年以降は、創造力の意図も含めつつ「抽象思考力、価値判断力」を意図して「想像力」と表記が変更されている。

出典：経済産業省社会人基礎力に関する研究会 (2006)。社会人基礎力に関する研究会－中間取りまとめ－、p.14を改変

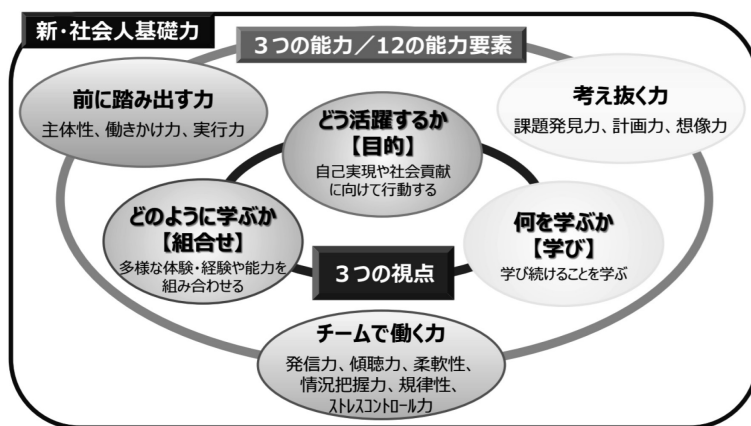


図2 「人生100年時代の社会人基礎力 (新・社会人基礎力)」

注：「想像力」は「抽象思考力、価値判断力」の意図も含め、2018年以降は「創造力」から表記が変更されている。

出典：経済産業省産業人材政策室 (2018)。人生100年時代の社会人基礎力について、p.3

であり、「社会情動的能力（社会情動的能力）」、「非認知的な能力」とも言われ、対人関係と社会的に生き抜くための力を示している。ヘックマンは、根気強さ、注意深さ、意欲、自信、長期的計画を実行する能力、他人との協働に必要な社会的・感情的制御⁵⁾であるとし、日本生涯学習総合研究所は、問題解決力、批判的思考力、協調性、コミュニケーション力、主体性、自己管理能力、自己肯定感、実行力、統率力、創造性、探究心、共感性、道徳心、倫理観、規範意識、公共性などの社会的・心理的能力であるとしている⁶⁾。このことから「社会人基礎力」は、非認知能力の一部、非認知能力の発展によって獲得される能力と理解することができる。ヘックマンは「幼少期の環境をよりゆたかにすることが認知的スキルと非認知的スキルの両方に影響を与え、学業や働きぶりや社会的行動に肯定的な結果をもたらす⁷⁾」「(幼少期の介入により) スキルがスキルをもたらし、能力が将来の能力を育てるのだ。幼少期に認知力や社会性や情動の各方面の能力を幅広く身につけること、その後の学習をより効率的にし、それによって学習することがより簡単になり、継続しやすくなる⁸⁾」という見解を示している。それを踏まえ、2018年度から施行されている保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領においても、非認知能力が今後の保育や幼児教育で、子どもたちに獲得されるべき重要な能力として位置づけられており、それを意識した保育者養成は重要な要件となっていると理解している。

本研究の対象であるオペレッタ創作も、社会人基礎力に並んで、非認知能力の獲得にも関連付けていくことが課題になっている。

研究方法

本研究は、図3に示した通り、「卒業記念音楽発表会」として行っているオペレッタ創作の発表後に、直後アンケートとグループ討議を行った上で、学生自身が取組を通して感じた獲得度の自己評価（ランク付け）をした際に併せて自由記述（コメント）した根拠や理由、感想を分類集計し、その傾向を分析するとともに、2019年度に集計した、獲得度の自己評価のランク付けの傾向との比較を行うこととする。

ただし、本研究では、先回の報告で積み残した、3つ目の「チームで働く力（チームワーク）」〈(7) 発信力、(8) 傾聴力、(9) 柔軟性、(10) 状況把握力、(11) 規律性、(12) ストレスコントロール力〉に限り分析を行いたいと思う。

本研究を実施することで、個人として能力獲得、個人としての獲得すべき能力の具体的な内容を明らかにして、オペレッタの効果や今後の指導上の課題を明確にすることを目標とする。

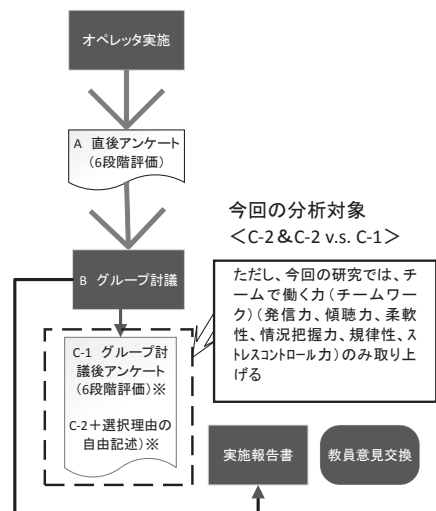


図3 本研究の分析の対象

直後アンケートもグループ討議後アンケートも、社会人基礎力の能力要素の重要性の度合とその獲得度合（数字によるレベル）の回答を求めるものであるが、その度合を選んだ理由や感想（自由記述）についてはグループ討議後アンケートのみとし、直後アンケートでは、学生の負担軽減の観点および獲得度の自己評価と重要度の認識の比較調査のプレテストという意味合いがあることから自由記述は設定していない。アンケート調査票は、論文末尾の資料で示した通りで、直後アンケートと討議後アンケートとは共通であるが、直後アンケートでは、右側の自己評価および重要性の認識についての自由記述欄は使用せず、記名を求めている。なお、グループ討議後アンケート（C-1、C-2）は、成績評価のため記名を求めているが、本研究に活用する際には、対象者に個人が特定されない形での集計・分析を約束している。

調査内容・分析方法

今回の報告では、図3のC-2のうち、「前に踏み出す力（アクション）」と、「考え抜く力（シンキング）」の合計6つの「能力要素」の「獲得度」に限り調査結果を分類集計し、その内容を考察した。

C-2の分類・集計の手順は、自由記述欄の内容から「1：何を」、「2：したのか、しなかったのか」に分け、1：の「何を」については、内容を、社会人基礎力の「能力要素」の意図から学生が認識したことを前提に「aすべきこと（相応しいこと）」と「bしてはいけないこと（相応しくないこと）」に分類した。さらに、その分類に基づいて、2：の「した、しなかった」の項目として「cした学生」と、「dしなかった（またはできなかった）学生」に分け、aからdの分類をもとに「eすべきことができた（すべきこと・相応しいことをした）」学生と、「fしてはいけない（相応しくない）ことをした」学生、「gすべきこと・相応しいことができなかった（しなかった）」学生に分け、fとgを「hしてはいけないことをしてしまった（以下、hしてはいけないことをしてしまったと表記）」学生として集計した。結果は、表1と表3に示している。

2019年度の研究報告において集計したC-1の6段階評価のうち、「チームで働く力（チームワーク）」に限り「獲得度」の数値を表2に示した。今回は、C-2(自由記述内)の集計で明らかになった「獲得した」とする行動規範、「ふさわしいと考える行動」を答えた学生の数・比率（表1、表3に示す）を比較し、獲得度の実態をより深く分析、考察を行うことにした。

表1 能力要素別 自由記述内獲得度認識 集計表 (N = 59)

評価	(7)発信力			(8)傾聴力			(9)柔軟性		
	eすべきことができた	hしてはいけないことをしてしまった。すべきことができなかった	eもあつたがhもあつた(再掲)	eすべきことができた	hしてはいけないことをしてしまった。すべきことができなかった	eもあつたがhもあつた(再掲)	eすべきことができた	hしてはいけないことをしてしまった。すべきことができなかった	eもあつたがhもあつた(再掲)
人数	33(55.9%)	38(64.4%)	11(18.6%)	52(88.1%)	12(20.3%)	5(8.5%)	49(83.1%)	21(35.6%)	10(16.9%)
評価	(10)状況把握力			(11)規律性			(12)ストレスコントロール力		
	eすべきことができた	hしてはいけないことをしてしまった。すべきことができなかった	eもあつたがhもあつた(再掲)	eすべきことができた	hしてはいけないことをしてしまった。すべきことができなかった	eもあつたがhもあつた(再掲)	eすべきことができた	hしてはいけないことをしてしまった。すべきことができなかった	eもあつたがhもあつた(再掲)
人数	45(76.3%)	29(49.2%)	15(25.4%)	49(83.1%)	24(40.7%)	13(22.0%)	49(83.1%)	19(32.2%)	9(15.3%)

表2 能力要素別 獲得度〈自己評価ランク〉集計表 (N = 59)

3つの能力	12の構成要素	中央区切評価				高低レベル評価				12の構成要素	中央区切評価				高低レベル評価			
		低レベル①～②		高レベル③～⑤		低・中レベル①～③		最高レベル④・⑤			低レベル①～②		高レベル③～⑤		低・中レベル①～③		最高レベル④・⑤	
		人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)		人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	29	49.2	30	50.8	47	79.7	12	20.3	発信力	16	27.1	43	72.9	42	71.2	17	28.8
	傾聴力	5	8.5	54	91.5	30	50.8	29	49.2	規律性	12	20.3	47	79.7	35	59.3	24	40.7
	柔軟性	14	23.7	45	76.3	43	72.9	16	27.1	ストレスコントロール力	14	23.7	45	76.3	29	49.2	30	50.8

出典：佐々木友里、葛谷潔昭（2019）。保育者養成校におけるオペレッタ創作による非認知能力（社会人基礎力）獲得の学生評価のグループ討議後の変容について、豊岡短期大学論集 No.16、p.139～152

結果と分析

(7) 発信力

「e するべきことができた」としたのが33人（55.9%）であるが、こちらは他の項目よりも低く数字で、前回の研究で「自発性」の低さが課題となっていることが結果に表れている。それに影響を受け、「h してはいけないことをしてしまった」を認識した学生は、38人（64.4%）にも上る。こちらも他の項目よりも高い数字を示している。さらに「e もあったが h もあった」を選んだ学生は11人（18.6%）であり、先述の h と相殺して「相応しくない行動だけをとった」と認識している学生は、27人（45.8%）に上っており、他の項目よりも高い数字である。

なお、具体的に「するべきこと」として掲げられた項目の中で、一番多くの学生が「できた」としたものが「自ら発信する」であった。内容には「意見、情報」の発信や「提案、声掛け」が含まれている。また、発信のベースとなる「自ら考える」を取り上げている学生が多いのも特徴で、傍若無人に発信することがむしろトラブルにつながってしまう部分にも着目していると思われる。

また「h してはいけないことをしてしまった」学生の場合、上記の「するべきことができなかった」の方が上位だが、「別の人の発信待ち」という受け身の部分を反省している学生、「伝えようとしたが不十分」で結果を考察して反省している学生が上位を占めている。相応しくない行動をとった学生のうち、半数以上は、何らかの主体性の不足を反省していることもわかる。主体性のなさが発信力にも影響を及ぼしていると思われる。

(8) 傾聴力

「e するべきことができた」とした学生が52人（88.1%）にも上っている。これは、今回の調査の中でも最高値である。「h してはいけないことをしてしまった」を認識した学生は12人（20.3%）で、こちらも最低値である。

なお、具体的に「するべきこと」として掲げられた項目の数値は、「意見、声、話を聞く（みんな、一人一人）」が27人（45.8%）、「意見を生かし（取り入れ、活かして）発展、改善させる」が16人（27.1%）、「相手の意見を受け入れる、聞き入れる」が10人（16.9%）となっており、傾聴力はそのまま、話を聞く力のことであるが、聞いた後の行動にもつなげている傾向がみられている。「困っ

ている人の話を聞く」と答えた学生が複数名おり、自分への意見だけでなく、他者への配慮も含めて傾聴力として発揮している、獲得していることがわかった。

一方で、してはいけないことに関しては、受け身である面、精神面、モチベーション面の低さを取り上げる意見が散見されたが、いずれも低い数字である。

(9) 柔軟性

「e すべきことができた」としたのが49人 (83.1%) いた。こちらも、12の構成要素の中で高い値である。「h してはいけないことをしてしまった」を認識した学生は21人 (35.6%) いた。一方「e もあったがh もあった」を選んだ学生は10人 (16.9%) を占めた。「相応しくない行動だけをとった」と認識している学生が11人 (18.6%) にとどまっている。

なお、具体的に「すべきこと」として掲げられた項目の数値は、「臨機応変に判断し行動する」が10人 (16.9%)、「他人の意見を聞く」が10人 (16.9%)、「状況を理解し、柔軟に対応する」が7人 (11.9%)、「先行きを判断して、適切に対応する」が6人 (10.2%) という順であり、臨機応変に対応することだけでなく、他者の意見を聞くこと、さらに先を見通すこと、「先行きを判断して、適切に対応する」が6人 (10.2%) で、重要視している傾向が見られる。

一方、してはいけないことに関しては、他に「モチベーションが低下する」が5人 (8.5%)、「苦手なことはしない、自分ができることのみする」が3人 (5.1%) といった、受け身である面、精神面、モチベーション面の低さ、特に不得意なことを避けてしまうことで柔軟性を失ってしまう傾向が明らかになった。

(10) 状況把握力

「e すべきことができた」とした学生が76.3% (45人) にも上っている。すべての要素の平均との比較で高値である。「h してはいけないことをしてしまった」と認識した学生は49.2% (29人) を占めたが「e もあったがh もあった」を選んだ学生は15人 (25.4%) であり、状況把握に努めたことがわかる。

具体的にできたこと、すべきこととして認識した内容は「情報、状況を把握する、理解する」が18人 (30.5%)、「自分から情報を入手する」が12人 (20.3%)、「コミュニケーションを取る」が11人 (18.6%)、「周りの行動、状況を把握する・よく見る」が7人 (11.9%) となっている。方法はどようであれ、学生が主体的に情報収集を行おうとしたことがわかる。また「進捗状況の把握をする」学生も5人 (8.5%) おり、状況把握が「見通し」を意識することにもつながっていることがわかる。

一方で「h してはいけないことをしてしまった」と認識した学生は、「自分から情報を入手することができなかった」が12人 (20.3%)、「自分のことのみ把握する」が9人 (15.3%)、「コミュニケーションを取れなかった」が6人 (10.2%)、「役割ごとの状況の把握ができなかった」が8.5% (5人) を占めており、他の項目同様「自発性」の低さ、コミュニケーションの不足、役割に対する責任の低さを認識する学生が目立った。

(11) 規律性

「e すべきことができた」としたのが49人 (83.1%) いた。他の要素と比べると比較的高い値である。なお「h してはいけないことをしてしまった」を認識した学生は24人 (40.7%) いた。一方「e もあったが h もあった」を選んだ学生は22% (13人) を占めた。「相応しくない行動だけをとった」と認識している学生が11人 (18.6%) いるが、他の項目と比較して高い数字ではない。

具体的に、「すべきことができた者」が重要視した内容としては「規律を守る」11人 (18.6%)、「ルールを守る」10人 (16.9%) で、集団内で形成、もしくは与えられた「決まりやモラル」を「守る」という行為を行ったとする者が21人 (35.6%) いた。その者は「時間を守る」と答えた学生9人 (15.3%) のうち、10.2% (6人) を占めている。また「積極的に (または必ず) 練習に参加する」が8人 (13.6%)、「自分の責任、役割を果たす」が6人 (10.2%) いた。この結果から、単にルールを守るだけでなく、自身の責任を果たすことも規律性に含むと理解していると思われる。

一方「すべきことができなかった、してはいけないことをしてしまった」を認識した学生のうち、「反省点を活かせなかった」が4人 (6.8%) で、数はわずかにしても、反省とその後の改善が規律性に含むと理解しており、それと同一人物が「わかっているも改善できない」とも回答しており、改善の難しさが、集団としての規律の保持に影響を与えていると思われる。

(12) ストレスコントロール力

「e すべきことができた」としたのが49人 (83.1%) いた。すべての要素の平均との比較できわめて高い値である。なお「h してはいけないことをしてしまった」と認識した学生は19人 (32.2%) いたが、こちらは比較的其他の項目よりも低い。一方「e もあったが h もあった」を選んだ学生は9人 (15.3%) にとどまっている。

学生のすべきことの認識と実行としては「ストレス解消法」を実施することを選んだ学生が多い。「人に話す、会話する」が13人 (22.0%)、「歌を歌う」が8人 (13.6%) であった。複数のストレス解消法を導入している学生が8人 (13.6%)、一つでもストレス解消法があり、実施した学生は59.3% (35人) にも上る。また「友人に相談する」者が8人 (13.6%) おり、先述のストレス解消法の「人に話す」を含めて、多くの学生が誰かに話したり、相談したりし、ストレスと対峙して乗り越えている状況が読み取れる。

一方で心配なのが「h してはいけないことをしてしまった」「すべきことをしなかった、できなかった」学生のうち、「ストレスを放置する・ため込む・我慢する」と回答している者が13人 (22.0%) もいたことである。その中に一人で抱え込むという学生が少数ながらいいた。アサーションができない学生、孤立しがちな学生が、ストレスを抱え込んでしまう可能性を感じさせた。

考察と結論

2019年度の研究報告と同様、本研究の集計、分析においても「傾聴力」と「ストレスコントロール力」「規律性」の獲得度が高くなる傾向はほぼ同じだった。一方で、前回の研究対象の項目も同じく、すべきこととして意識した、重要なこととして意識した内容のうち、多数を占めているのが「自発性」と「積極性」を意図するコメントであったが、今回の項目の中に「傾聴性」が入っていたこともあり、「人の話を聞く力」と「自発性」と「受容性」と「受け身」の関連性も考えさせられる結果となった。また、能力の獲得度の自己評価ランクは低く出ている、状況把握を実行した学生は多くみられ、状況把握と傾聴、さらには自発的なコミュニケーションを図りながら、オペレッタ創作を成功させようと努力している学生の姿が浮かんできた。

本研究の自由記述の調査を行った結果、オペレッタ創作で獲得した能力、オペレッタ創作で得た課題の自己客観視が進んだ。しかし、今回のストレスコントロール力と発信力の回答状況、獲得度のデータから、コミュニケーションスキルのある学生と、そのスキルがない、または、低い学生の2極化があり、後者の場合、よりストレスを感じ、目標達成に向けた行動ができないという悪循環に陥っている可能性に気が付いた。本人の満足度はわからないが、受け身の姿勢でそのまま完成を待つ、指示だけを受けて終わるという学生は、孤立しストレスを抱えやすいともいえる。

本研究のデータから、オペレッタ創作が、①学生の「自発性と人間関係、コミュニケーション」の重要性、②チームの目標達成のためには自発的なアプローチとメンバーの連携が重要であることの認識ができた、という効果は確認できた。しかし、孤立を実感し、ストレスを抱えやすいことを認識した学生がいた可能性も否めない。この結果から言えば、オペレッタ創作の効果がなかった、むしろ逆効果になってしまった可能性すらあることを、担当教員としては肝に銘じておく必要があると考える。

今後の課題と展開

前回と今回、集計・分析した内容は、経済産業省の「社会人基礎力」がベースであった。今後は、「非認知能力」の認識の拡大と深化を踏まえた、評価フォームの開発を行っていききたい。また、先述したオペレッタ創作の「逆効果」「悪循環」をなくす、または、それへのフォローにつながる研究も行っていきたい。

表3 自己評価コメント 集計 (N = 59)

(7) 発信力			
eするべきことができた	人数	比率	備考
自ら発信(意見、提案、情報、声掛け)する	16	27.1%	少し3、後から3、できなかった別掲10
自ら考える	6	10.2%	
SNSを利用する	3	5.1%	
相手に分かりやすく説明・発信する	3	5.1%	できなかった別掲1
思いを発信する	2	3.4%	できなかった別掲1
自ら意見を伝える	2	3.4%	できなかった別掲3
自ら確認する(情報、状況)	2	3.4%	できなかった別掲1
自ら提案する	2	3.4%	
自ら復習する・練習する	2	3.4%	
自分の考えを持つ	2	3.4%	
◆1人(1.7%) なるべく発信する、みんなの予定を聞く、リーダーを気遣う・立てる、何をしたら良いか考える、改善点を共有する、共有するために発信、思いつけばすぐ発信する、時と場合で変える、自ら共通理解を図ろうとする、自ら考えて行動する(できなかった別掲2)自ら仕事を割り振る、自ら伝える(できなかった別掲1)、自ら不明点を調べる、自分の判断で行動しない、自分の予定を知らせる、情報共有する(メンバー間)、相手の気持ちを考える、他の人の仕事を共有する、他人に協力を求める、発信する前にリーダーに確認する、練習についての案を考えた、 ◆0人(0%) リーダーとして発信する(できなかった別掲1)、リーダーと自ら情報共有する(できなかった別掲1)、リーダー以外にも発信する(できなかった別掲1)、自ら全体に発信する(できなかった別掲1)、全体に自分の意見を伝える(できなかった別掲1)、他人の意見を代理発信する(できなかった別掲1)			
(7) 発信力			
hしてはいけないことをしてしまつた。するべきことができなかった	人数	比率	備考
自ら発信(意見、提案、情報、調整のすべて)する	10	16.9%	できなかった
別の人の発信待ちする	5	8.5%	
伝えはした(ようにした)が不十分	4	6.8%	
自ら意見を伝える	3	5.1%	できなかった
意見を言いたくも言えない	2	3.4%	
一部にしか伝わっていない	2	3.4%	
自ら考えて行動する	2	3.4%	できなかった
自ら動かない	2	3.4%	
自ら発信・意見表明できない	2	3.4%	
自分のことだけ精一杯	2	3.4%	
◆1人(1.7%) タイミングが作られるのを待つ、リーダーだけに伝える、リーダーだけに任せる、言われたことだけしかない、思いを発信する(できなかった)、自ら解決できない、自ら確認する(情報、状況;できなかった)、自ら伝える(できなかった)、自分のことだけでは発信する、人間関係の悪化で行動できない、相手に分かりやすく説明・発信する(できなかった)、他ごとを始め、他人に頼る、伝え忘れ、任せっぱなし、分かっているができなかった、役割を果たせないと、リーダーとして発信する(できなかった)、リーダーと自ら情報共有する(できなかった)、リーダー以外にも発信する(できなかった)、自ら全体に発信する(できなかった)、全体に自分の意見を伝える(できなかった)、他人の意見を代理発信する(できなかった)			
(8) 傾聴力			
eするべきことができた	人数	比率	備考
意見、声、話しを聞く(みんな、一人一人)	27	45.8%	できなかった別掲2
意見を生かして(取り入れ、活かして)発展、改善させる	16	27.1%	
(9) 柔軟性			
eするべきことができた	人数	比率	備考
周囲の意見やアイデアを聞く	11	18.6%	
相手の意見を受け入れる、聞き入れる	10	16.9%	
より良くしようと思う	3	5.1%	
意見を聞こうと努力する	3	5.1%	
相手の違った意見から新たな発見をする	3	5.1%	
困っている人の話を聞く	3	5.1%	
耳と気持ちを開ける	3	5.1%	
グループとうまくやる	2	3.4%	
リーダーの意見を聞く	2	3.4%	
自分と向き合う、客観視する	2	3.4%	
◆1人(1.7%) 相手の悩みを聞く(共有する(できなかった別掲1)、アドバイスを受け入れる、うなづく、きちんと耳を傾ける、しっかり聞く、みんなと一緒に考える、改善点を認める、気持ちを汲み取る、気持ちを共有する、愚痴や悩みを聞く、言われたことは理解する、自分のことだけでなく相手の気持ちを聞く、自分のできないことを聞く、助言を傾く、新たな発見に気づく、素直に聞き入れる、目を傾ける、問題点を見つける、話しやすい環境を作る、相談しながら進める、メモをとる、意見を共有する ◆0人(0%) 自ら考える(できなかった別掲1)			
(8) 傾聴力			
hしてはいけないことをしてしまつた。するべきことができなかった	人数	比率	備考
人の意見を聞かない	3	5.1%	
言われた事以外は実行しない	2	3.4%	
意見、声、話しを聞く(みんな、一人一人)	2	3.4%	できなかった
◆1人(1.7%) リーダーや先生を頼る、意見が違うとイライラする、一人で突っ走る、不満を態度に出すが意見は言わない、指示待ち、時々しか聞けない、自ら頼れようとし、自分のことで精一杯、自分の意見を押し通す、聞いたことを忘れる、相手の悩みを聞く、共有する(できなかった)、自ら考える(できなかった)			
(9) 柔軟性			
eするべきことができた	人数	比率	備考
臨機応変に判断し行動する	10	16.9%	少し1、できなかった別掲8
他人の意見を聞く	10	16.9%	少し1
状況を理解し、柔軟に対応する(NG)	7	11.9%	できなかった別掲1
先行きを判断して、適切に対応する	6	10.2%	できなかった別掲3
相手を理解して対応する	6	10.2%	
適切な方法を考えて行動する	5	8.5%	
変更をすぐに受け入れる	5	8.5%	
意見交換をして柔軟に対応する	4	6.8%	
現状よりもより良くしようとする	4	6.8%	
新しい内容を考え実行する	4	6.8%	
積極的に変化を求め対応する	3	5.1%	
他人の意見を取り入れ対応する、意見を尊重する	3	5.1%	
体全体で演技する	3	5.1%	
異なる意見を理解する	2	3.4%	
積極的に考えて行動する	2	3.4%	
別の方法を考え実行する	2	3.4%	
話し合いで解決する	2	3.4%	
意見を受け止める	2	3.4%	
◆1人(1.7%) アドバイスや助言を参考に対応する、すぐに行動する、メンバーの意見を集約する、リーダーの意見を取り入れる、円滑にいく方法を考える、経験を積むうちに新しい発見に気が付いた、経験を積んで臨機応変に対応できるようになった、見方を変えて考える、固定概念にとらわれない、後からフォローする、工程を確認しながら進めていく、困る事をなくす、使命感で冷静になる、次の段階へ繋げる、自分の意見を押し			
(9) 柔軟性			
eするべきことができた	人数	比率	備考
臨機応変に判断し行動する	8	13.6%	できなかった
モチベーションが低下する	5	8.5%	
苦手なことはしない、自分ができることのみする	3	5.1%	
変化に気が付いても対応できない	3	5.1%	
先行きを判断して、適切に対応する	3	5.1%	できなかった
固定概念にとらわれる	2	3.4%	
自分の意見を持たない	2	3.4%	
他人の意見を聞かない、興味しない	2	3.4%	
問題が生じると途方に暮れる	2	3.4%	
どうしてよいか判断ができない	1	1.7%	
◆1人(1.7%) どうしてよいか判断ができない、言われたことだけの指示を待つ、自己主張する、自分と向き合えない、焦る、他人の意見を素直に受け入れない、前に進めない、目の前のことに囚われる、状況を理解し柔軟に対応する(できなかった)、新しい問題に対処する(できなかった)			
(10) 情報把握力			
eするべきことができた	人数	比率	備考
情報、状況を把握する、理解する	18	30.5%	できなかった別掲1、少し9
自分から情報を入手する	12	20.3%	できなかった別掲13
コミュニケーションを取る	11	18.6%	できなかった別掲6
周りの行動、状況を把握する・よく見る	7	11.9%	
進捗状況の把握をする	5	8.5%	後から1、できなかった別掲3
どのように動くべきか考える	4	6.8%	できなかった別掲2
情報、状況を把握し行動する、働きかけをする	4	6.8%	後から1、できなかった別掲1
周の様子を見て行動する	3	5.1%	
常に確認する	3	5.1%	
人間関係の状況を考えて行動する	2	3.4%	できなかった別掲1
わからないことは自ら聞く	2	3.4%	後から1
自分から話しかける	2	3.4%	
詳しく把握するために聞く	2	3.4%	
情報収集に努める	2	3.4%	
人間関係の状況の把握をする	2	3.4%	
全体の動きを把握する	2	3.4%	
◆1人(1.7%) 役割ごとの状況の把握をする(できなかった別掲5)、自分の役割の状況を把握する(できなかった別掲1)、メンバーの思いも把握しようとする、改善するための意見を出す、協調性を持つ、現状よりも良くしようとする、言われたことを理解する、考えて行動する、持っている情報を共有する、自分の詳細の把握と情報収集、色々な意見を聞く、人と話しを聞く、他人にも情報を伝える、他の役割まで視野を広げる、必要最低限は理解する、優先順位を考える、冷静に周りを見る			

◆0人(0%) 作業を割り振る(できなかった別掲1)			
(10)状況把握力			
hしてはいけないことをしてしまつた。するべきことができなかった	人 数	比率	備考
自分から情報入手する	12	20.3%	できなかった
自分のことのみ把握する	9	15.3%	できなかった
コミュニケーションを取る	6	10.2%	できなかった
役割ごとの状況の把握をする	5	8.5%	できなかった
情報を収集しきれない	3	5.1%	できなかった
進捗状況の把握をする	3	5.1%	できなかった
言われることだけする	2	3.4%	できなかった
周りの様子を観察するだけ	2	3.4%	できなかった
周りをよく見ない	2	3.4%	できなかった
どのように動くべきか考える	2	3.4%	できなかった
◆1人(1.7%) どう動くか考えられない、自分のことで精一杯、自分のすべきことだけをやる。抜けるところもある。必要性が低いことは理解しようとしていない、情報・状況を把握する・理解する(できなかった)、情報・状況を把握し行動する、働きかけをする(できなかった)、人間関係の状況を考え行動する(できなかった)、自分の役割の状況を把握する(できなかった)、作業を割り振る(できなかった)			
(11)規律性			
eするべきことができた	人 数	比率	備考
規律を守る	11	18.6%	できなかった別掲2
ルールを守る	10	16.9%	できなかった別掲3
自らを律する、厳しくする	10	16.9%	できなかった別掲3
時間を守る	9	15.3%	
積極的に(または必ず)練習に参加する	8	13.6%	
自分の責任、役割を果たす	6	10.2%	
団体で活動できる	4	6.8%	できなかった別掲1
積極的に行動する	3	5.1%	
立場を考えた行動をする	3	5.1%	
なるべく練習に参加する	2	3.4%	できなかった別掲3
挨拶をしっかりする	2	3.4%	
気持ちよく進めていく努力をする	2	3.4%	
約束を守る	2	3.4%	

◆1人(1.7%) メンバーで連携して目標達成できる(できなかった別掲1)、反省点を活かす(できなかった別掲1)、クラス全体の動きに合わせる、みんなで規則を守る、メリハリをつけて行う、ものを大切に、より良いものを求める、リーダーとしての責任を持つ、ルールを決める、期日を守る、気持ちを入れて行う、協力する、決めたことはきちんとする、見本になるよう取り組む、現状より良いものを目指す、言われたことはする、考えで行動する、指示に従う、自分の発言を守る、勝手な解釈をしない、勝手に行動しない、人としてあるべき行動をする、早めに動く、他人に迷惑をかけない、提出期限を守る、報告連絡をする、予定を守る、和を大切に、話し合っ			
(11)規律性			
hしてはいけないことをしてしまつた。するべきことができなかった	人 数	比率	備考
反省点を活かす	4	6.8%	できなかった
分かっていても改善できない	4	6.8%	できなかった
なるべく練習に参加する	3	5.1%	できなかった
自らを律する、厳しくする	3	5.1%	できなかった
自分は規則、規律を守るが他の人が守らない	3	5.1%	できなかった
グループ以外のルールを守らない	2	3.4%	できなかった
チームの規律が守れない、意識しない	2	3.4%	できなかった
規律を守る	2	3.4%	できなかった
自己都合で休む	2	3.4%	できなかった
◆1人(1.7%) メンバーで連携して目標達成できる(できなかった)、団体で活動できる(できなかった)、クラス以外のルールは守れない、やる気のない態度をとる、ルールを決めない、言われたことしかしない、自分のことだけする、自分の役割を果たさない、集中力が欠く、他人は規律を守れず自分も守れない、体調管理ができない、遅刻や欠席をする、忘れ物をする、立場のルールを守らない			
(12)ストレスコントロール力			
eするべきことができた	人 数	比率	備考
ストレス解消法＝人に話す、会話を	13	22.0%	
ストレス解消法＝歌を歌う	8	13.6%	
友人に相談する	8	13.6%	
時間の切り替えと気分転換する	7	11.9%	
ストレス解消法＝好きな事をする	6	10.2%	
ストレスを感じない(前向き)	4	6.8%	
ストレス解消法＝友人と遊ぶ	4	6.8%	

ストレスコントロールする(方法不明)	3	5.1%	できなかった別掲1
ストレス解消法を持つ(方法不明)	3	5.1%	
意見を表明し、解決する	3	5.1%	
落ち着いて行動しようとする	3	5.1%	
ストレスを持ち込み迷惑をかけないようにする(方法不明)	2	3.4%	
ストレスを溜め込まない(方法不明)	2	3.4%	
ストレス解消法＝一人の時間をとる	2	3.4%	
ストレス解消法＝友達と話す	2	3.4%	
チームのメンバーと一緒に遊んで人間関係を良好にする	2	3.4%	
家族に相談する	2	3.4%	
休憩を入れる	2	3.4%	
細かいことを気にしない	2	3.4%	
目標を持つ	2	3.4%	
◆1人(1.7%) ストレスを感じる(前向き)、我慢する、こまめに解消する、ストレス解消法＝スポーツ、ストレス解消法＝リラックスする、ストレス解消法＝映画を見る、ストレス解消法＝音楽を聴く、ストレス解消法＝睡眠、ストレス解消法＝料理する、一人で抱え込まない(後からできるようになった)、自分の役割を見直す、自分の役割を淡々と行う、心を鍛える・訓練する、心を無にする、辛いことも楽しむようにする、辛い状況を受け流す、睡眠をとる(ストレス防止)、成功のイメージを持つ、先生に相談する、他の人の気持ちを理解しようとする、頭の中を無にする			
(12)ストレスコントロール力			
hしてはいけないことをしてしまつた。するべきことができなかった	人 数	比率	備考
ストレスを放置する・ため込む・我慢する	13	22.0%	
イライラを態度に出して、迷惑をかける	3	5.1%	
一人で問題を抱え込む	3	5.1%	
ストレスを感じる(後ろ向き)	2	3.4%	
ストレス解消法が見つからない	2	3.4%	
ストレスを解決できず抱え込む	2	3.4%	
人間関係がもつれる	2	3.4%	
◆1人(1.7%) ストレスコントロールする(方法不明:できなかった)、ストレス解消法をしても解消しない、愚痴を言う(不快を感じさせない)、親しい仲間のみだけに言えない、日常生活に合わない			

引用文献

- 1) 佐々木友里, 葛谷潔昭 (2019). 保育者養成校におけるオペレッタ創作による非認知能力(社会人基礎力)獲得の学生評価のグループ討議後の変容について, 豊岡短期大学論集 No.16, p.139~152
- 2) 佐々木友里, 葛谷潔昭 (2020). オペレッタ創作による保育者としての社会人基礎力・非認知能力の獲得に関する研究～「するべきこと」と獲得度の認識を通して(1)～, 豊岡短期大学論集 No.17, p.215~226
- 3) 経済産業省社会人基礎力に関する研究会 (2006). 社会人基礎力に関する研究会－中間取りまとめ－, p.4~5
- 4) 経済産業省産業人材政策室 (2018). 人生100年時代の社会人基礎力について, p.3
- 5) ジェームズ・J・ヘックマン, 大竹文雄解説, 古草秀子訳 (2015). 幼児教育の経済学, 東洋経済新報社, p.11, 17
- 6) 一般財団法人 日本生涯学習総合研究所 (2018). 「非認知能力」の概念に関する考察, p.5表2 「能力の要素」
- 7) 上記5) p.29
- 8) 上記5) p.34

参考文献

経済産業省社会人基礎力に関する研究会 (2006). 社会人基礎力に関する研究会－中間取りまとめ－
https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/001_s01_00.pdf (2019年10月1日閲覧)

経済産業省産業人材政策室 (2018). 人生100年時代の社会人基礎力について
https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/007_06_00.pdf (2020年8月1日閲覧)

経済産業省・河合塾 (2010). 社会人基礎力育成の手引き－日本の将来を託す若者を育てるために、教育の実践現場から
<http://www.wakuwaku-catch.com/社会人基礎力/社会人基礎力育成の手引き/> (2018年10月1日閲覧)

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所 (2018). 「非認知能力」の概念に関する考察

遠藤利彦ら (2017). 非認知的 (社会情緒的) 能力の発達と科学的検討手法についての研究報告書：国立政策研究所
https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/h28a/syocyu-2-1_a.pdf (2020年8月1日閲覧)

James J. Heckman (2006). Skill Formation and the Economics of Investing in Disadvantaged Children.: Science, Vol.312 (5782), p.1900～1902

資料 アンケート調査票

卒業音楽発表会から学んだこと～自己評価表

社会人基礎力 3つの能力/ 12の能力要素	獲得できた評価	自己評価を記述
I. 前に踏み出す力(action) 一歩踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力		
1 主体性	0・1・2・3・4・5	
2 実行力	0・1・2・3・4・5	
3 働きかけ力	0・1・2・3・4・5	
II. 考え抜く力(thinking) 疑問を持ち、考え抜く力		
4 観察発見力	0・1・2・3・4・5	
5 判断力	0・1・2・3・4・5	
6 創造力	0・1・2・3・4・5	
III. チームで働く力(teamwork) 多様な人々と共に目標に向けて協力する力		
7 発信力	0・1・2・3・4・5	
8 調整力	0・1・2・3・4・5	
9 柔軟力	0・1・2・3・4・5	
10 情祝把握力	0・1・2・3・4・5	
11 規律性	0・1・2・3・4・5	
12 ストレスコントロール力	0・1・2・3・4・5	

♪評価基準♪ 0 できなかつた 1 少しできた 2 だいたいできた 3 できた 4 よくできた 5 完璧

♪社会人基礎力とアンケート♪
 「社会人基礎力」とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」です。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力から構成されています。この「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが重要とされています。保育養成校では、オペレッタ劇の活動は、保育者としての能力の獲得および、「社会人基礎力」の獲得の上で、重要だとされています。

このアンケートは、その「社会人基礎力」の学習自身の獲得の機会を評価し、「卒業研究(オペレッタ劇作)」という授業科目の評価として、その力の重要性の捉え方を確認するものです。

「社会人基礎力」とは
 3つの能力 / 12の能力要素
 1. 前に踏み出す力 (action) 2. 考え抜く力 (thinking) 3. チームで働く力 (teamwork)

学科 番 氏名

卒業音楽発表会から学んだこと～重要性の学び

社会人基礎力 3つの能力/ 12の能力要素	重要性を感じたか	具体的に記述
I. 前に踏み出す力(action) 一歩踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力		
1 主体性	0・1・2・3・4・5	
2 実行力	0・1・2・3・4・5	
3 働きかけ力	0・1・2・3・4・5	
II. 考え抜く力(thinking) 疑問を持ち、考え抜く力		
4 観察発見力	0・1・2・3・4・5	
5 判断力	0・1・2・3・4・5	
6 創造力	0・1・2・3・4・5	
III. チームで働く力(teamwork) 多様な人々と共に目標に向けて協力する力		
7 発信力	0・1・2・3・4・5	
8 調整力	0・1・2・3・4・5	
9 柔軟力	0・1・2・3・4・5	
10 情祝把握力	0・1・2・3・4・5	
11 規律性	0・1・2・3・4・5	
12 ストレスコントロール力	0・1・2・3・4・5	

♪評価基準♪ 0 感じない 1 少し感じた 2 大分感じた 3 よく感じた 4 とても感じた 5 強く感じた

グループ名	
グループでの自分の位置	
係りの役割についての反省	
配役名	
演技についての反省	
大道具/小道具	
衣裳	
今回学んだこと	
今回学んだこと	

学科 番 氏名

出典：佐々木友里、葛谷潔昭 (2019)。保育者養成校におけるオペレッタ創作による非認知能力 (社会人基礎力) 獲得の学生評価のグループ討議後の変容について、豊岡短期大学論集 No.16, p.139～152

